

ちいさなたね【幼児おたより】

うさぎ組・ひつじ組・ぞう組

2025年度 2月

聖和乳幼児保育センター

寒さの厳しい日が続いているが、子どもたちは毎日元気いっぱい過ごしています。冷たい風が吹く中でも「上着いらないね!」「一緒にいきかけっこしよう!」と声をかけ合い体を動かしています。歌『ゆげのあさ』の歌詞に出てくる、自分の白い息を見て「湯気出たよ!」と喜んでいます。戸外では凧揚げ、室内ではかるたやすごろく、こま回しなど昔ながらの伝承遊びを楽しんでいます。

今月は劇遊びの取り組みを楽しめます。動物が大好きな子どもたち。話し合いの結果、たくさんの動物が出てくる『もりのおふろ』というお話を決まりました。「どんな動物がいいかな?」、「絶対うさぎがいい!」とそれぞれが意見を出し合い、30種類近く挙がった候補の中から、お話をの中に登場する6匹の動物たちを子どもたちと一緒に考えました。これまでうさぎ組でうたってきた歌を各動物バージョンの替え歌にすると、「うさぎだよじゃなくて、うさぎさんの方がいいんじゃない?」など、思い浮かぶアイデアをどんどん出してくれています。初めての劇遊びになりますが、ドキドキとワクワクを感じながら楽しみたいと思います。一人ひとりのありのままの表現を大切に、笑い合ったり認め合ったりしながら、少しずつ『みんなで表現する面白さ』を感じていきたいと思います。

寒暖の変化の激しい毎日ですが、子どもたちは毎日元気いっぱい過ごしています。1月はコマ回しやあやとり、凧揚げなど伝承遊びをたくさん楽しめました。園庭では、鍵鬼(鬼ごっこ)ブームが再来し、気がつくとクラス全員が参加している日もあります。追いかける鬼側も、逃げる側も、気持ちが熱くなるとルールが守れず話し合いになることもあります。その都度「こういう場合はどう思う?」「次からはどうしたい?」と確認しながらルールを決め直しています。自分たちで決めたルールで遊びが進んでいくことも楽しい経験になっているようです。友だちと遊び楽しさとともに、一緒に考えながら作っていく面白さも大切にしていきたいと思います。

今、ひつじ組ではみんなが大好きな絵本『11匹のねこ ふくろのなか』のごっこ遊びを楽しめています。子どもたちとセリフを考えたり、「ここはちょっと変えてみよう」と話し合いながら進めています。絵本の中では“してはいけない”と書かれていることをついついやってしまふねこたちの姿があります。それを自分たちにも置き換えて、その気持ちについて考える機会も持っています。また、「樽がいるね」「ふくろがいる!」と必要な道具にも気づき、作り始める姿も見られます。これからどんな11匹のねこになるのかとても楽しみです♪

2月も子どもたちの「やってみたい」「楽しい!」という気持ちを大切にしながら過ごしていきたいと思います。

寒暖差が激しい日々ですが、ぞう組の子どもたちは「早く外遊び行こう!」「ドッヂボールやりたい」「最後みんなで増え鬼してから帰ろうよ!」と戸外での活動を楽しめています。体を動かすと全身が温まり、動きやすくなることも感じているようです。大学のグラウンドでは、氷ができる水たまりの場所を覚えて、行きたびに確認しながら楽しみにしています。これから寒さが一段と厳しくなりますが、冬の自然にも触れながら心と体を動かしながら過ごしたいと思います。

1月の中頃から劇遊びに向けて話し合い「へんてこもりのきまぐれろ」と「へんてこもりのころがりざか」を合わせたオリジナルのお話をすることになりました。登場人物を誰にするのか、お話を進め方はどうするのか、どのような言葉や歌で表現するのかなど、最初は恥ずかしさや戸惑いから自分の意見をなかなか伝えられずにいましたが、「最後にみんなで力を合わせて行える劇」であることや「思いを伝え合うことや一緒に考えることが大切」であること、「みんなの考えを出し合った方がきっと楽しい劇になるのではないか」と話し合ってきました。今では少しずつ考えたことを伝えたり、「それいいね!」とお互いに認め合う姿が見られ、気持ちがぐっと前に進んでいく様子が見られています。保育センターで楽しむ最後の保育参観日は、子どもたちが主体的にやってみようとする姿を大切にし、みんなで作り上げる楽しさや達成感をたくさん味わいながら迎えたいと思います。



グラウンドの水たまりに分厚い氷が張っていました。

Aくん「うわっ! つめた!」
Bくん「つるつるしてる!」と、大喜びしていたのも束の間、落として割れてしまいました…。
しかし、足で踏むと音が鳴ることに気付きました。

Aくん「めっちゃパリパリ!」
Bくん「おいしそうやなあ…」

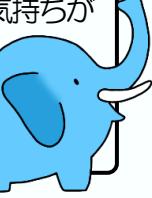
音や感触を楽しんだ結果、食欲が刺激されてしまったBくんでした。



自分で作った凧が出来上がり、ついに凧揚げをした日のことです。走れば走るほど揚がる凧が嬉しくて、みんなで広い大学のグラウンドを走っていました。そんな時の一言です。

Aちゃん「(息切れしながら) はあはあ…やっぱり凧揚げって体力があるよね!」

そう言いながら走っていくAちゃんの凧は空高く高く揚がっていました。楽しい凧揚げでした。



ある寒い日の朝に、戸外のバケツに氷ができるのを見てくれたAちゃん。

Aちゃん「今日の氷、めっちゃ大きくなってた! 昨日より大きいよ」
保育者「本当だ! すごいね!」
Aちゃん「私ね、氷育てるんだ。

このまま置いとけば、また明日にはもっと大きな氷ができるかもしれない!」

“氷を育てている”という言い回しが新鮮で、ぴったりだと感じました。